卓和会　第２回歴史散策
2009 年 6 月 6 日
平田　幸雄

鎌倉幕府の史跡を巡る

1. **鎌倉駅東口**　出発（以下歩く順に示す。）

2. **若宮大路**　由比ヶ浜から鶴岡八幡宮までの 1.8km の参道をいう。鶴岡八幡宮を内裏に見立て，京の朱雀大路に模して造られたと考えられている。最近の発掘調査により道幅は約 33 m あったと推定される。海岸から一の鳥居，二の鳥居，三の鳥居と並び，かつては両側に松並木があったが，今はその面影はほとんどない。「日本の道 100 選]に選ばれている。国指定史跡。

3. **下馬跡**　若宮大路と長谷から名越へ通じる大町大路との交差点付近で，海に向かって左側に下馬跡の碑が立っている。鎌倉時代，八幡宮に参拝するときは，いかに身分の高い武士でであっても，ここで馬を下りなければならなかった。また，若宮大路を横切るときも，馬を下り拝礼をしなければ通れなかったという。

4. **浜の大鳥居跡**　頼朝の時代から記録に残るもので７回建て直されていたが，場所が特定できず，不明であった。1990 年の道路工事の際に直径 1.6mの柱の根元が発見された。同時に出土したものから室町時代(1553 年)に小田原北条氏康により造営されたものと推定されている。

5. **畠山重保の墓**　一の鳥居のそば，海に向かって右側に立つ高さ 3.4mの石塔（宝篋印塔）で鎌倉時代の武将畠山六郎重保の墓と伝えられている。重保の父畠山重忠は，頼朝の信用も厚く，幕府から重く用いられていた。重保もそれに劣らぬ立派な武士であった。頼朝の死後，北条氏から疎んじられ，1205 年に親子ともども打ち取られた。この墓のあるあたりが重保の屋敷跡といわれ，鎌倉幕府が 1333 年に滅んだあと 1393 年に建てられた。

6. **一の鳥居**　鳥居が最初に建てられたのは 1180 年源頼朝といわれている。現在の一の鳥居は，1668 年に造られたもので，国の重要文化財になっている。
二代将軍秀忠の奥方崇源院が鶴岡八幡宮の弁天を信仰しており，夢の中での弁天さまのお告げにより，備前の国(岡山)の犬島にあった石を運び，一の鳥居から三の鳥居を造ることにした。大工事のため，崇源院の死後 42 年経って，四代将軍家綱の時代に完成した。1923 年(大正 12)の関東大震災のときに，一の鳥居から三の鳥居はすべて倒れ，1937 年(昭和 12 年)にこの一の鳥居だけが元の石で修復再建された。

７. **万霊供養塔**　1953 年簡易裁判所の用地を発掘したところ，人の骨や馬の骨が大量に出てきた。東京大学人類学教室で調査したところ男，女，子供の骨が 1000 体近くあった。骨と一緒に出てきた陶器と骨の数の多さから 1333 年新田義貞の鎌倉攻めのときのものではないかといわれている。
由比ヶ浜は，鎌倉時代には「前浜」と呼ばれ，鶴岡八幡宮の神聖な行事を行う場所であったと共に，埋葬の地でもあった。簡易裁判所の敷地内にあり，休日は門が閉じられているため，拝観できない。

８. **由比若宮**(元八幡)　相模守であった源頼義は，京都の石清水八幡宮に戦勝を祈願し，前九年の役

(1051～62 年)で奥羽(東北)の豪族阿部頼時・貞任に勝ち，京へ帰る途中に 1063 年鎌倉に立ち寄り，由比郷鶴岡のこの地に，源氏の守り神である石清水八幡宮の祭神を移し祀って，ここに社を造ったといわれている。その後，頼義の子義家が戦勝を祈り 1081 年に社殿を修理した。八幡太郎と呼ばれた義家は，源氏の氏神として大変崇拝していたという。

1180 年源頼朝が現在の鶴岡八幡宮に社殿を移してから，由比若宮(通称，元八幡)と呼ばれる。

元八幡は源氏と鎌倉のつながりができた初めである。

参考　源氏系譜：清和天皇―・・・・―**頼義**―義家―義親―為義―義朝―**頼朝**―┬頼家／└実朝

9. 辻の薬師堂　かつて医王山長善寺という神亀年間(724～729 年)真言宗の寺院が名越方面にあったが，後にこの地に移され，横須賀線の線路にまたがる地域がその寺域であったといわれている。1889 年に横須賀線が大船と横須賀間に開通したときに，本堂が取り壊され廃寺になり，薬師堂が残ったという説と，江戸時代に焼失し，薬師堂だけを残して廃寺になったという説がある。平安後期の本尊薬師如来立像，室町時代と思われる脇侍の日光・月光菩薩，鎌倉・室町時代の十二神将像は，鎌倉国宝館に寄託され，堂内にある仏像は本物に似せ作られたもの(イミテーション)である。現在の薬師堂は関東大震災後再建されたもの。

10. **町屋阯の碑**　このあたりは，鎌倉時代に鎌倉が最も栄えていたころの商家の地域であった。にぎやかな商店街の中央の通りを大町大路と呼んでいた。

11. **妙本寺**　鎌倉幕府の重臣であった比企能員(よしかず)の一族が住み，妙本寺はその屋敷跡といわれている。能員の養母比企の尼は幼いころの源頼朝の乳母であった。頼朝が伊豆に流されているときは，いろいろな物を送り届けて，陰で頼朝を支えていた。能員の妻は，頼朝の子供で，二代将軍となる頼家の乳母に，能員の娘は，将軍頼家夫人(若狭局(わかさのつぼね))となった。頼家と若狭局の子一幡は，比企の家で育てられた。1203 年に頼家が重い病にかかり，次の将軍を誰に決めるかで比企氏と北条氏の間で争いとなった。比企氏は，頼家の子一幡を，北条氏は，自分の娘阿波局（政子の妹）が乳母をしている千幡（頼家の弟，後の実朝）を次期将軍にしようとしたのであった。北条時政は，比企能員を法事をすると呼びよせて殺すと同時に，比企の館を攻め滅ぼした。6 才の幼い一幡は，焼かれた館で死に，若狭局は比企ヶ谷の井戸に身を投げて死んだといわれる。その後，能員の子能本(よしもと)が日蓮の弟子となり，師である日蓮のためと比企一族を弔うために 1260 年能員の屋敷あとにお堂を建てたのが妙本寺のはじまりとされている。

12. **段葛**　若宮大路のほぼ中央に左右に石を積み，一段高くした参詣道。源頼朝が 1182 年，妻北条政子の安産を祈願し，北条時政や武将になどに命じて若宮大路とともに造営されたといわれる。

当初の様子は定かではないが，かつら石を置いて若宮大路の通りより高いところに造ったことから，置路，置石，作道，千度小路，七度小路などとも呼ばれ，段葛と呼ばれるようになったのは，江戸時代以降のことである。江戸時代末期には，現在の下馬四ツ角までとなり，更に明治期

になって横須賀線の開通(1889 年)と江ノ電の鎌倉までの開通(1910 年)で姿をかえ，現在は，二の鳥居から鶴岡八幡宮前の三の鳥居までの約 500 m である。大正時代に両側に桜を植えて，現在のような参

道に整えられた。日本の桜風景 100 選に選ばれている。県指定史跡。

13. **宇都宮辻子幕府跡**　二の鳥居から鶴岡八幡宮に向かって 100 m ほど行った右側，雪の下教会の付近一帯と推定され，現在は，宇都宮稲荷が祀られている。「宇都宮辻子」の名は若宮大路と東側の小町大路を結ぶ小路のことで，三代執権北条泰時は，大倉からこの地へ幕府を移し，四代将軍藤原頼経を擁して，1225 年から 1236 年までの約 11 年間政治を行った。

14. **若宮大路幕府跡**　1236 年から 1333 年の幕府滅亡まで 97 年間，政治の中心となった。四代将軍藤原頼経から九代将軍守邦親王が住み，親王屋敷とも呼ばれた。最近は，若宮大路幕府は，宇都宮辻子幕府を増改築したもので，実際は同一のものであるという説もある。

15. **鶴岡八幡宮**　1180 年，源頼朝が鎌倉に入ったとき，由比若宮を現在の地に遷座して鶴岡若宮と称した。1186 年に静御前が頼朝の前で舞ったのは若宮の回廊であったという。この当時の絵図は発見されていないが，豊臣秀吉が 1591 年(天正 19)に鶴岡八幡宮造営を家康に命じたときの指図（図 4 参照）がある。この天正指図は，新築されるものと修復するものといった注記があり，それ以前の建物の状況が推測できる。この図 4 から，当初は，鶴岡若宮を囲む回廊があったことが推定される。
1991 年 3 月に若宮が焼失したが，同年 11 月に大臣山の中腹に本宮が造営され石清水八幡が正式に勧請されると共に若宮が再建された。これで本宮(上宮)と若宮(下宮)からなる八幡宮の原型ができた。
舞殿が新造されたのは 1193 年のことである。本宮の祭神は，応神天皇，比売神，神功皇后。
若宮の祭神は，仁徳天皇，履仲天皇，仲媛命，磐之媛命。　若宮の周囲には，護摩堂，鐘楼，大塔，輪蔵(経堂)，仁王門，二十五坊なども造られ，神と仏が一緒に祀られていたので(図１参照)，　正しくは八幡宮寺と呼ばれた。1868 年(明治元)，新政府が公布した神仏分離に関する布告により仏教関係の御堂や伽藍が破壊・移築され現在の鶴岡八幡宮となった。

16. **鎌倉国宝館**　鶴岡八幡宮の境内に建つ歴史・美術博物館。1923 年の関東大震災によって鎌倉の多くの寺社は倒壊，貴重な文化財が失われた。不時の災害から文化遺産を保護し，あわせて鎌倉を訪れる人々が文化財を拝観，見学できる展示施設として，1928 年に開館した。2000 年，奈良東大寺正倉院の校倉造りにならって建てられた本館は，国の登録有形文化財に登録された。

17. **畠山重忠の屋敷跡**　畠山重保の墓(５．参照)に出てくる重保の父畠山次郎重忠の邸宅があったところ。吾妻鏡には，1199 年 5 月に頼朝の次女三幡姫が病み，その治療のため，京都から下ってきた当時の名医丹波時長が掃部頭親能の亀ヶ谷の家から重忠の南御門の家に転居したと記している。
頼朝は，1199 年 1 月 13 日に亡くなり，三幡は同年 6 月 30 日に亡くなった。

18. **大倉幕府跡**　1180 年，鎌倉に入った源頼朝は，鶴岡八幡宮の東側，大倉の地に館を構えたのでのちに，大倉幕府と呼ばれた。東西南北に門が設けられていたようで，現在でも，西御門，東御門などの地名が残っている。大倉幕府は，三代執権の北条泰時が若宮大路の宇都宮辻子に新たな御所を落成し移転する 1225 年までの 25 年間，頼朝，頼家，実朝，そして尼将軍ともよばれた頼朝の妻北条

政子の時代まで武家政治の中心地であった。

19. **法華堂跡　(源頼朝の墓)**　　大倉幕府跡の裏山にある源頼朝の墓あたりが法華堂跡とされる。もとは頼朝の持仏堂で，1189 年に建てられた。頼朝はここに葬られ，1200 年の一周忌に持仏堂は法華堂といわれた。1247 年の宝治合戦で，幕府の重臣であった三浦泰村の一族は北条時頼に敗れ，500 人余りがここで自害した。江戸時代，頼朝の墓の下に堂があり，これを法華堂と称した。神仏分離に関する布告で，この法華堂は廃され，白幡神社となった。頼朝の墓は，1779 年に頼朝の子孫と称した薩摩藩主島津重豪(しげひで)が新たに建てたもので，1990 年に補修されている。

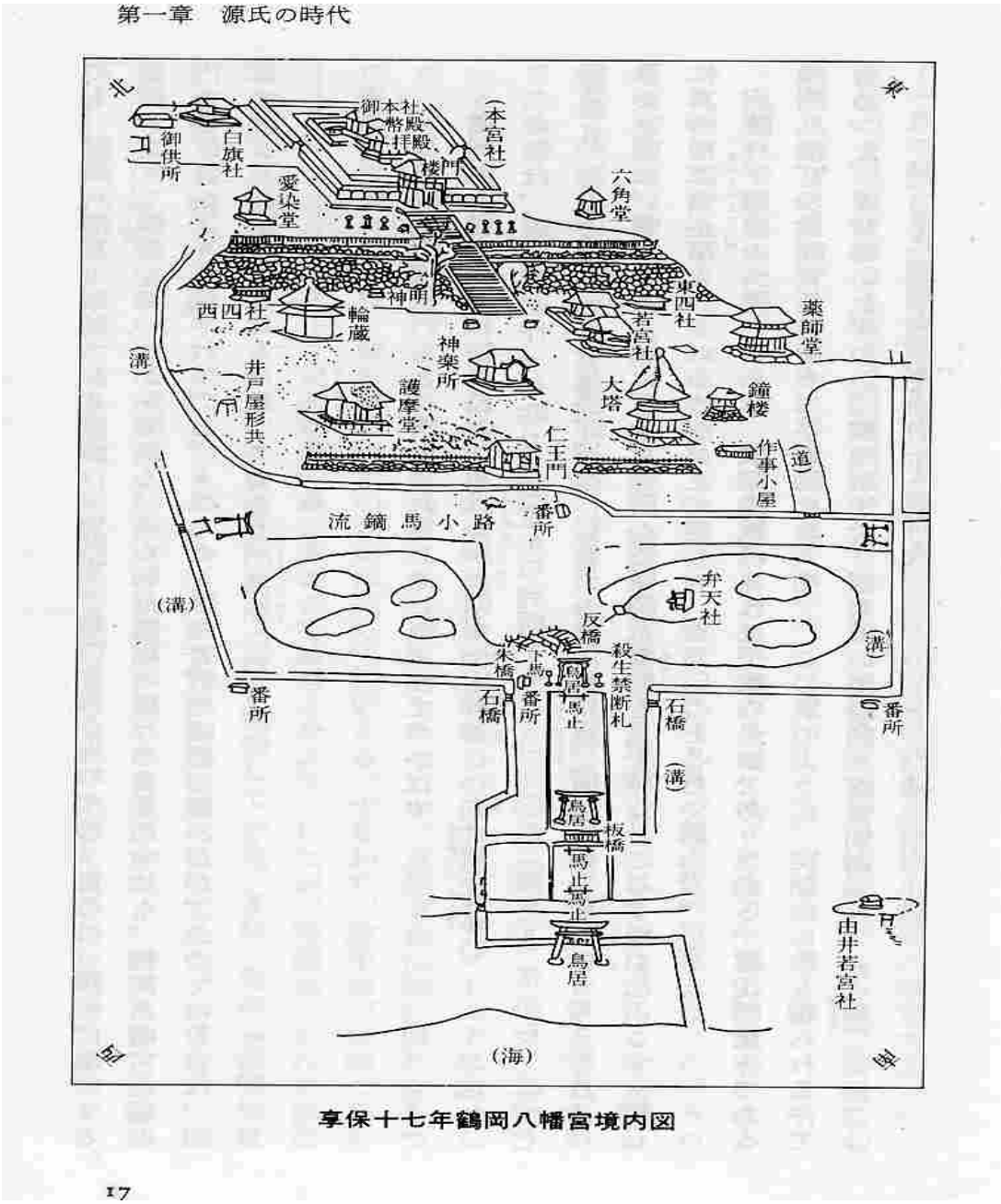

図１　享保 17 年（1732）鶴岡八幡宮寺の境内